

声に耳を傾け、心に寄り添う

私にできる最大限を尽くした先に、お客様の喜ぶ顔があれば良いと思います。そのため、目の前の人の気持ちを受け止め、寄り添える自分でありたいのです。

私のキャリアのスタートは美容師でした。長い下積み時代に大変さはあったものの、お客様の喜ぶ顔が嬉しくて20年続けられました。来てくださるお客様には最大限の安心感を抱いていただけるように、柔らかい雰囲気での接客を心がけていました。

コロナ禍を機に、私は「新たな仕事に挑戦したい」と営業職に転職。新規開拓の経験を積み、「数字だけでなく、お客様への気持ちも大切にしたい」という新たな想いが湧いてきました。

たかはし葬儀社のことは、社長からのスカウトメールで初めて知りました。そのきっかけがなければ、葬儀業界で働くことすら考えていなかったかもしれません。

しかし、面接で話をする中で働くイメージが湧くように。美容師や営業職の経験で培った人と接するスキルや、柔らかいと言っていただけ私の雰囲気を活かせるのではないかと思い、入社を決めました。

現在は、葬祭ディレクターとしてご葬儀の打ち合わせから司会まで担当しています。

悲しみに暮れるご家族が抱えるお気持ちは、人それぞれ。打ち合わせの際にはご家族の声に耳を傾け、できる限りご希望を形にしようという想いで向き合っています。

以前担当したご葬儀のことです。

打ち合わせで伺った故人様のご職業が印象的でした。そこで、会場にご職業にまつわる装飾を試みました。

お式の当日、ご家族は装飾に気がつき「どなたが作ってくださったのですか？」と喜んでくださいました。

ご家族の様子に「心に寄り添う仕事ができたのかな」と、今でも印象に残っています。

たかはし葬儀社に入社してから、辞めたいと思ったことは一度もありません。

それは、「お客様のために」の気持ちエネルギーになっていることに加え、社員同士の支え合いがあるから。

先輩はどんな場面でも親身になって業務を教えてくださいます。お客様だけでなく、仲間に対しても寄り添いを忘れないのがたかはし葬儀社なのだと感じる日々です。

そんなたかはし葬儀社は、大切な私の居場所。

定年まで、ここで勤め上げたいと思っています。だからこそ、会社や仲間、お客様に必要とされる存在であり続けたい。

そのために、これまで大切にしてきた「寄り添い」を今後も継続し、目の前のお客様の満足度を上げることに力を尽くしていきます。



The Philosophy of TAKAHASHI SOUGISHA

あなたと共に生きる

Toshikazu Sasaki